

新型光ファイバ切断器 S325

S325 Fiber Cleaver

1. 概要

FTTHのユーザ宅内引き込みやLAN等の接続工事では、取り扱いが簡単で高い信頼性の光ファイバ切断器が要求されます。そこで、操作手順を大幅に減らすとともに、手で持ったままで作業が行なえる光ファイバ切断器を開発しました。従来品でご好評をいただいているファイバ屑回収機能も装備しています。

2. 特長

2.1 外観

本体はグリップしやすい形状になっています(図1)。終端接続において想定される様々な工事環境に対して、手で持ちながら切断作業することが可能であると同時に、本体をクロージャの中に挿入できるため、短い光ファイバ余長でも切断作業を可能にしました。



図1 S325外観
Appearance of S325.

2.2 携帯性

小型軽量であるため、様々な接続工事現場へ容易に持ち込むことができます。本体にはストラップを取り付けることができ、手首に掛けて使用することによって万が一の機器落下を防止できます。首さげひもを使用して首にぶらさげることも可能です(図2)。



図2 ストラップで使用している様子
High portability with a hand strap.

2.3 小型軽量

本体重量は約330 gに軽量化されており、従来の光ファイバ切断器の約2/3を実現しました(当社S323比)。

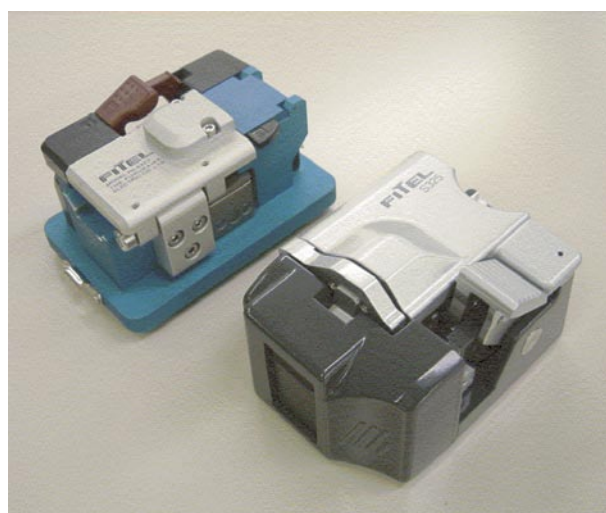


図3 S323(左)とS325(右)
Compact body.
S323 on the left and S325 on the right.

2.4 操作性

従来の光ファイバ切断器では、「切断」、「ファイバ屑回収」、「リセット」の各作業を別々に行なう必要がありましたが、これらの一連の作業が指一本の操作で行なうことが可能になりました。光ファイバ切断器にファイバホルダをセットした後は、本体の上ぶたを閉じ、切断用レバーを押し切るだけでファイバ屑回収までが自動的に完了します(図4)。切断刃は、切断完了後に本体の上ぶたを開くことで自動的に復元します。このため、切断操作ミスが大幅に減少し、作業効率が向上します。

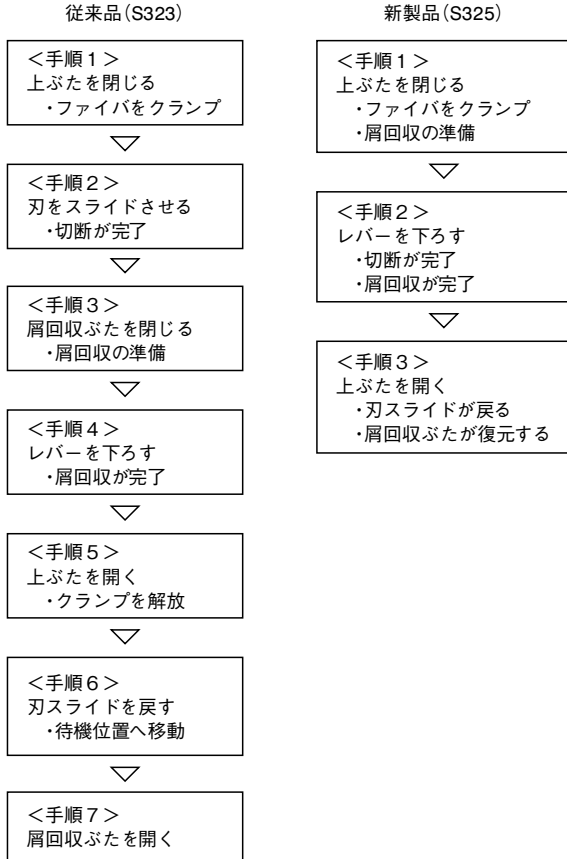


図4 操作方法の比較
Comparison of operation procedures.

2.5 メンテナンス

切断刃を保持するスライドユニットが本体から取り外せるため、切断刃を容易に交換することが可能です(図5)。また、交換後の切断刃高さも特別な治具を使用することなく調整が可能です。

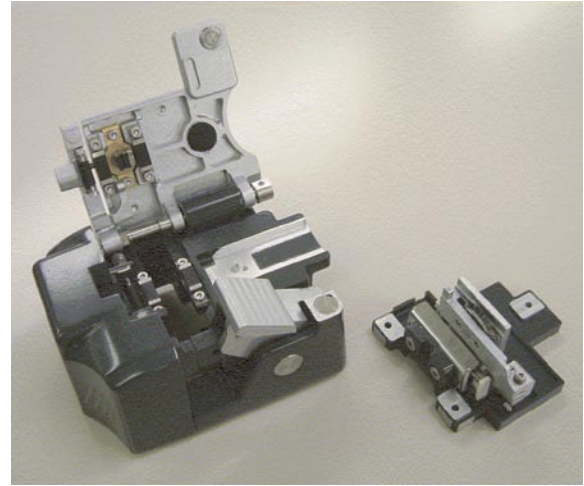


図5 スライドユニットの取外し
Removal of sliding unit.

2.6 オプション

ホルダシステム対応はもちろん、単心アダプタの使用も可能です。

3. 製品仕様

平均切断角度0.50°以下の端面切断処理をスキルレスで実現する光ファイバ切断器です。表1に主な仕様を示します。

表1 S325の製品仕様
Specifications of S325.

項目	仕様
適応ファイバ種	SM 単心線 テープ線： 2心～12心、0.25 mm ピッチ
光ファイバ外径	φ 0.125 mm
光ファイバ被覆径	φ 0.25 mm, φ 0.9 mm
切断刃寿命	32000心線
光ファイバ切断長	ホルダシステム使用時 10 mm 単心アダプタ使用時 10 mm (固定), 16 mm (固定) 6～20 mm (任意調節)
外形寸法(最大寸法部)	(W) 93 × (D) 68 × (H) 52 mm
重量	330 g (ファイバ屑箱を含む)

<製品問合せ先>

情報通信カンパニー 光メカトロニクス部
TEL : 03-3286-3445 FAX : 03-3286-3708